

城ノ内中等教育学校（前期課程）

「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 生徒の自主性や協調性を育て、個性や創造性を伸ばす授業の実践
- 「対話的な学び」の実践を通して確かな学力の定着を図る～一人一台端末の有効的な活用

学力向上検討委員会構成(前期課程)

学力向上推進員	委員
高見 委三 (進路指導課長)	湊雅邦(校長), 安崎輝彦(教頭), 井上貴文(教務課長), 篠原貴道(第3学年主任・数学科主任), 東條良栄(第2学年主任), 仲田一恵(第1学年主任, 国語科主任), 坂田雅也(社会科主任), 石田有佳里(理科主任), 鈴江涼子(英語科主任)

校長

湊 雅邦

【中高連携における共通の取組】

- 一人一台端末を有効活用した対話的な学びの実践。
- 相互授業参観, 意見交換, 授業作り交流会等の実施により連携を深める。

【取組状況の把握について】

- 授業参観の報告, 学力推移調査, 学校評価アンケート等, 様々な機会を捉え, 取組状況の把握・検証・共有を行う。
- 学力向上検討委員会による検討結果を全教職員で共有する。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み, 学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能については, 習得率も高く, 与えられた課題にもまじめに取り組むことのできる生徒が多い。 ●個々の知識量に差がある。また, 学んだ知識を関連づけたり, 身の回りの事象や日常生活と結びつけることが苦手な生徒が多い。	・知識・技能を確実に身につけ, 既習の知識・技能と関連づけて活用することができる。 ・自主的に家庭学習に取り組み, 学習時間が各学年の掲げる目標時間に達している。 目標時間 1年生:120分 2年生:120分 3年生:140分	・習得した知識や技能を用いる場面をICTを効果的に活用しながら多様に取り入れ, 定着を図る。 ・暗記だけに終わらないようにものごとや現象の「どうして」「なぜ」を考えさせる。 ・定期考査において, 基礎的・基本的な知識・技能を問う問題を誤答した生徒への学習支援を, 考査後の補習や課題の提出等により行う。 ・学習実態調査を行い, 生徒に自分自身の学習時間を振り返らせる。また, 担任と教科担任の連携を図りながら, 学習習慣を身につけさせる。 ・生徒に応じた問題を精選し, 小テストも実施する。 ・生徒に応じて手引きや条件(制約)を設けて, 活動に取り組みやすくする。	・日常生活における活用の視点を意識し, 授業を展開する。	・生徒の知識・技能の習得状況に応じ, ICTの効果的な活用を工夫して取り組み, 学習意欲や学習理解につながった。 ・発問のしかたを工夫したり考える時間を確保するなど, 暗記だけに終わらない学習を意識することで, 理由とともに自分なりの答えを導き出す習慣が身についた。 ・学習達成状況に応じ, 考査の前後や長期休業を活用し, 補習や課題等学習支援を行うことができた。 ・年間5回の学習実態調査を通して実態を把握し, 目標にほぼ達することができた。1年生118分(目標120分), 2年生138分(目標120分), 3年生146分(目標140分) ・問題を精選し, 小テストを段階的に定期的実施するとともに, どの生徒も授業の活動に取り組みやすくなるような手立てを工夫した。	・日常生活における活用の視点を意識し, 生徒の知識・技能の習得状況を把握したうえで, その定着を図る。 ・生徒のつまずきを学習材とし, 機を捉えて考えることができるように工夫するとともに, 応用力を育む。 ・課題の内容や量, 課題を提示する時期を検討し, 生徒が意欲的に学習に取り組めるようにする。 ・学習習慣が身につけていない生徒や学習活動に意欲が見いだしにくい生徒等に対して, 担任や教科担任連携および習熟度や個に応じた指導を行い, 学力向上を図る。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○話すことや書くことを通して, 自分の考えを表現することができ, 他者の意見をしっかりと聞くことができる生徒が多い。また, 課題に応じて, 自分の考えをまとめることができる生徒が多い。 ●主体的に考え, 判断しようとしていたり, 他者の意見から, 考えを深めることが苦手な生徒が多い。	・学習活動の目的・目標を明確に理解し, 各教科の見方・考え方を働かせて課題をつかみ, 自分の考えをわかりやすく論理的に表現することができる。 ・他者の考えや新たな知識を取り入れ, 課題を様々な視点で捉え, 自分の考えをより深めたり修正することを通して, 新しい課題の設定や新しい考え方を表現することができる。	・すべての教科でペア学習やグループ学習の機会を取り入れ, 言語活動を充実させるとともに, 習得した知識・技能を実際に使用する場面を増やす。 ・課題解決のために必要な情報収集や情報整理をさせる。 ・話し合い, 発表等, 相手に自分の考えをわかりやすく伝える場面を通して, 考えを広げ深めさせる。 ・ICT機器を効率よく使い, 意見を共有する機会を増やす。 ・新聞等を活用し, 要約したり自分の考えを述べたり俳句や短歌の創作をしたりする機会を取り入れる。	・日常生活に結びつけた課題に取り組む機会をもたせる。 ・学んだ知識・技能を実際に活用する場面を引き続き設定する。	・できる範囲内で適切な場面を設定し, ICTを積極的に活用して, ペア学習やグループ学習を実施し, 言語活動に取り組んだ。 ・ICT等を活用し, 課題解決に向けて情報収集・整理を行う機会を通して, 協働あるいは自ら解決しようとする姿が見られた。 ・学んだ知識・技能を実際に活用できる自己表現の機会を増やすことができた。	・ICTを効果的な活用を模索し, 自己表現活動により積極的に取り組む。 ・言語活動の充実によりいっそう取り組み, 発表など自己表現の仕方を他教科と連携し, 伝える力を育成する。 ・評価の視点や評価方法について検討し, 改善を図る。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業に一生懸命に向かい, 与えられた課題にも熱心に取り組む, 新しい知識の習得にも意欲的な生徒が多い。 ●自ら課題を発見し, メタ認知を働かせ, 適した課題を設定したりするなど見直しをもって学習に取り組むことが苦手な生徒が多い。	・自ら学習目標を持ち, 学習の進め方の自己調整を自発的に行うことができる。 ・学んだ知識や技能を駆使し, 日常生活や社会的事象の課題解決に向け, 意欲的に考え取り組むことができる。 ・夢の実現に向けて, 目標を達成するために, 自らの学習状況を振り返り, 試行錯誤しながら粘り強く取り組むことができる。 ・各種検定への挑戦など, 自ら高い目標を定め, 主体的に学習し課題に取り組むことができる。	・各教科の授業において, 見直しをもって主体的に取り組むことができるような課題設定を行う。 ・すべての教員が相互授業参観を行い, 授業改善を行う。 ・自らの理解の状況を振り返ることができ, 学習意欲を高めるような発問の工夫や, 話し合い等ICTも有効活用して, 他者との協働を通じて自らの考えを相対化する場面を設定する。 ・各教科担任により検定に取り組むことの意義を伝える。 ・振り返りシートを活用し, 各自の課題を振り返ることができるようにする。 ・新聞への投稿や各種表現の場を活用し, 表現や意見交流の楽しさを実感させる。	・振り返りシートなどを活用し, 自己調整できるよう, さらに工夫していく。	・めあての明確化や授業の振り返りを通して, 目標を持って主体的に学習に取り組めるよう指導した。 ・学期毎に, 前期, 後期・高等学校で連携し, 公開授業・授業参観を実施し, 授業力改善に向けて取り組んだ。 ・ワークシートや振り返りシートを効果的に活用し, 自らの学習理解度を把握することで自己課題を発見できるようになってきた。 ・学校評価アンケートにおいて, 「各種検定は学習の励みになる」と回答した割合は, 生徒・保護者とも85%以上あり, 意義を伝えることができた。	・前期・後期の連携をよりいっそう図り, 6年間を通して, 学習に主体的に取り組む, 自己調整できる生徒の育成を目指す。 ・振り返りが, 今後の学習の指針となるよう, 振り返りシートの活用を工夫する。 ・各種検定の取り組みについて, 共通理解を持ち, 検定受験を通して, 生徒が主体的・意欲的に学習に取り組むことができるよう, 指導する。 ・各検定の実施日については, 校内で連携し日程調整を行う。

令和4年度 学力向上ロードマップ

